

2021年度 自己評価報告書

2022年3月22日

学校法人 釧路キリスト教学園 湖畔幼稚園

1. 本園の教育目的

「神様の愛と恵のもとに生かされている喜びを分かち合う」

神さまが愛をもって造られた世界は、恵みに満ちています。特に神さまのかたちに造られた私たちには神さまの限りない愛が注がれています。その神さまの愛と恵みに出会い、感動と喜びを体験し、自分自身がかけがえのない人間として生かされていることを知る時、他の人もまた同じように尊い命に生きていることに気づくのです。互いにその喜びを分かち合い、共に生きることを具体的に体験していきます。園生活を通して、神さまの愛のもとで保育者や友だちと喜びを共にし、自分を愛し、他の人を愛し、自然を大切にする、調和のとれた人間性の教育を目的とします。

2. 本園の教育目標

- ・子どもが、自分自身が大切な存在として受け入れられていることを感じとり、自分自身を喜びと感謝をもって受け入れることができるようになる。
- ・子どもが、イエスさまを身近な存在として知ることを通して、見えない神さまの恵みと導きへの信頼感を与えられ、イエスさまと共に、日々を歩もうとする思いを与えられる。
- ・子どもが、自分と他の人との違いを認めると共に、違いを認めつつ一緒に生活するための努力ができるようになる。
- ・子どもが、こころを動かし、探求し、判断し、想像力をもち、創造的に様々な事柄に関わるようになる。
- ・子どもが、私たちの生きる自然や世界を神様の恵みとして受けとめ、自然や世界の事柄に関心をもち、自分たちのできることを考え、行うようになる。
- ・子どもが、してはいけないことをしようとする思いが自分の中にあることに気づき、そのような思いに抵抗することができるようになる。

3. 本年度の重点目標

年主題は『共に喜んで～全ての歩みの中～』

年主題聖句『一つの部分が苦しめば、全ての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれば、全ての部分が共に喜ぶのです。』コリントの信徒への手紙Ⅰ 12章26節

- ・私たちは神様から大切な命を与えられ、かけがえのない一人ひとりであることを子ども達と実感しあえる日々でありたい。そして、それぞれの大事な役割があって、その一人一人を神様が愛し、大切にしてくださいを感じながら、安心した園生活を送ることを目指す。また、友達の良さを認め、共に喜び合うことのできる保育を目指す。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から災害や緊急事態時に備えてきたが、さらに危機管理マニュアルを見直し、教職員間で共通理解をし、意識の向上に努める。
- ・園舎の建て替え工事に伴う保育室の減少による生活の工夫もあるが、クラスや学年の枠を外したランチタイムなど、現在も取り入れている異年齢の活動をさらに深め、子どもたち同士の豊かな関係性を育む。
- ・2022年度の幼稚園型認定こども園化に向けて、子育て支援事業の働き（未就園児クラス、預かり保育、園開放）をより充実させる。
- ・ユネスコスクールのテーマ『未来の力～心と体のすくすくプロジェクト』の2年目の取り組みにおいて、未来を担う子どもたちの心とからだの豊かな成育のための質の高い学びや、園における子どもたちの健康で安全のための環境づくり、外遊びの充実化を図る。

4. 教職員による評価項目に対する自己評価

※ () 内は前年度数値

評価項目	取り組み状況	評価
Ⅰ. 保育の計画性	<ul style="list-style-type: none"> ・教師会においてキリスト教保育連盟刊行の「キリスト教保育」を学び、み言葉の理解を深めて月の願いを共有した。子どもたちの様子など日々情報交換を大切にし、子どもたちそれぞれへの教育的配慮について共に考え合いつつ保育するよう努めた。また、そのような日常の中でキリスト教保育の大切さやその思いを教師一人ひとりが深めることができた。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行ないながら、日々の保育の内容・行事のひとつずつを検討した。ホールでの自由あそびの組み合わせを各学年で調整し合ったり、みんなの時間や合同礼拝を分散したりして密閉・密集・密接を避けた保育を継続し、状況に応じた内容を確認しながら進めてきた。分散しての活動において各々の遊びをじっくりと行い、十分に活動することができていた。また、個々の活動を組み合わせることにより、異年齢との取り組みを計画立てて取り入れることができた。 ・新園舎の建築に伴う、保育室の減少により、満3歳児が他の学年に加わって活動した。様々な不自由さもあったが、縦の関わりも深められ互いに育ちあうことができた。また、新園舎に関わる人たちとの交流や建築の様子に興味や関心を広げ、園舎の完成を心待ちにしながら過ごすことができた。 	3. 6 (3.5)
Ⅱ. 保育の在り方・幼児への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の保育の様子や子どもの様子を教師間で報告し合い、幼児理解を深めるように努めた。担任のみならず全教職員で全員の子どもたちを保育しているという意識をもち、一人ひとりの課題を受け止め、各教師が同じ思いで対応することができるように配慮した。 ・感染症拡大防止に努めながら行事の内容を話し合い、その持ち方のみならず、根本的な取り組みの形においても検討を重ねた。保護者との信頼関係を深めるように努め、保育活動に対する理解をいただきながら、子どもたちの満足感・達成感のある取り組みを行うよう心掛けた。特に雨天のために中止となった運動会は、隣接の公園を借用し、各学年別に子どもたちの取り組んできた内容を保護者に参観していただき、子どもたちの主体的に取り組む様子や達成感・充実感を味わう姿を共に喜び合うことができた。 ・ユネスコスクールの取り組み『未来の力～心と体のすくすくプロジェクト』においては、感染症対策の観点から健康で安全な環境づくりを行った。運動遊びについては、次年度園庭整備する際にそのことも踏まえ、子どもたちが楽しんで遊びながら体づくりできるようにしたいと考えている。 ・感染症対策も加えた危機管理マニュアルに基づき、安心・安全な園生活をおくることができるように教師間で確認し合った。 	3. 6 (3.6)
Ⅲ. 保育者としての資質・能力・良識・適正	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策により、各クラス、学年単位の活動に加えて、相互に連絡・調整を行いながらの生活となったことで、教師間の連携が深まった。また、全体で共通理解を持つよう教師間で発信し合うよう努めた。 ・教職員それぞれの得意、不得意を互いに理解し合い、互いに補い合いながらの保育活動を心がけ、チーム力が向上するよう努めている。 ・保育には教師自身の人間性が重要であるという認識のもと、日頃から文化や芸術に触れたり、広くアンテナを広げて興味関心を持ったりして、自己研鑽に励む努力をしている。 	3. 8 (3.7)
Ⅳ. 保護者への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの園での様子など、連絡ノート、お便り、ブログ、また、面談や電話などで保護者に伝達し連絡を密にするよう努め、保護者との信頼関係を築くようにしている。 ・保護者からの相談や質問などに対しても、園長・副園長などに報告、相談をして丁寧に対応するよう徹底している。 ・感染症対策を重点に置き、その時の状況に合わせて、行事など保育の内容を変更したが、その都度お便りなどで、変更点を丁寧に伝えるよう配慮した。園の対応を保護者の方々が信頼してくださり、様々な変更にご理解、ご協力をいただけたことはとても感謝なことであった。 ・保護者のクレームなどに丁寧に対応するよう努め、教師間の連絡と報告・相談の上で細やかな対処を行った。 	3. 9 (3.6)

V. 地域 の自然や 社会との 関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症拡大防止の観点から地域や外部の方との接触を極力避けた活動の中、お散歩や公園などの園外保育に出かけることができた。また、日常的に遊んでいた園庭が新園舎建築により使用できなかったことや地域に向けた活動全般の自粛を続けていることにより、関わり不足感から評価が低くなった。 ・老健たいようの利用者さんとのリモートによるふれあいも定着し、飾りつけをしていただいた誕生会のアーチや、手作りのクリスマスプレゼントなどを通して、心を通わせることができ、子ども達にとっても優しい気持ちやいたわりの気持ちが育っている。 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、まん延防止措置期間と小学校の引継ぎの時期とが重なったことで、園を訪問していただいていた直接的な引継ぎができず、ほとんどが電話による引継ぎとなった。電話での日程調整や内容を伝えることが難しかった。 	2. 9 (3.1)
VI. 研修 と研究	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員のオンラインやリモートでの研修が充実し、様々なジャンルの研修に各教師が積極的に参加することができ、個々に得た研修内容を全体で共有するように努め、教師の意識・質の向上を図ることができた。 ・研修会の内容が一部のものに偏り、多岐に渡った内容ではなかったことや日々おのおのが自ら研修することがなかなか難しいようであることで評価が低くなっている。 	3. 1 (3.0)

4：あてはまる 3：大体あてはまる 2：あまりあてはまらない 1：あてはまらない

5. 次年度以降に取り組む課題

年主題は『つながって～今、わたしを生きる～』

年主題聖句『主がすべての災いを遠ざけて、あなたを見守り、あなたの魂を見守ってくださるように。あなたの出で立つのも帰るのも主が見守ってくださるように。今も、そしてとこしえに。』詩編 121 篇 7～8 節

・今を生きている『わたし』を見つめ、神様から与えられている様々な『つながり』を感謝しながら、心と心をつなげ合って共に育ちあう日々でありたい。神様がかけがえのない一人として『わたし』を愛し、大切にしてくださることを感じながら、子どもたちが楽しく安心した園生活を送ることができるよう努める。ひとつひとつの出会いに神さまが働いてくださることに感謝し、友だちや先生、保護者や地域の方などと豊かにつながりあって、共に喜び合うことのできる保育を目指す。

・新園舎が完成し、幼稚園型認定こども園のスタートとなる。子どもたちが安全・安心できる環境を整え、より幼い子どもたちへの配慮を十分に行う。また、子育て支援事業の働き（未就園児クラス、預かり保育、園開放）を充実させる。

・認定こども園化に伴い、様々な働きの教職員が増えることから、神さまに集められた一人ひとりであることを自覚し、思いを一つとしていく。教職員一人ひとりが子どもたちにとっての人的環境であり、そのことにふさわしい教師の在り方について共通理解をもっていく。

・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から災害や緊急事態時に備えてきた。さらに危機管理マニュアルを見直し、教職員間で共通理解をし、意識の向上に努める。

・場所や時間、人数などを分散させた保育を行っているが、学年・クラス毎の保育を組み合わせ異年齢との活動を工夫して計画する。それぞれが十分に関わり合っって子どもたち同士の豊かな関係性が育つように配慮する。

・ユネスコスクールのテーマ『未来の力～心と体のすくすくプロジェクト』の3年目の取り組みにおいて、未来を担う子どもたちの心とからだの豊かな成育のための質の高い学びや、園における子どもたちの健康で安全のための環境づくりを行う。特に5月には完成する園庭が、豊かな遊びの基地となるように計画する。

2021年度 学校関係者評価委員会の総合的な評価

学校関係者評価委員

片村優美 井上薫 高橋徳庫 安田光則

・働いている家庭の保護者としても、幼稚園で子どもたちを預かっていただけることはありがたく思っている。新型コロナウイルス感染防止対策の影響で、園内を訪れる機会が減ってしまったが、こはんまつりの時には入ることができた。他の保護者と触れ合う機会も少なくなったので、もっと深めたいと思う。園舎の建替えにより、子どもたちの生活環境が整えられ、給食もはじまることは特にありがたい。新しい環境の中で小さい子どもたちのふれあいがより深まることを願う。

・旧園舎から新園舎への移り替わりの中で、色々なことに配慮し工夫がされた1年間となったと思う。新園舎に入らせていただき、落ち着いた雰囲気です心安心した。建物を有効利用しながら、認定こども園としての役割をもって保育してほしい。また、新園舎は、他の園の保育も参考にしながら縦割り保育等臨機応変に使用できるのではないかな。ホールで落ち着いて礼拝できると思うし、礼拝堂としての役割も果たせるのではないかな？今の制限や制約の中でもできることを工夫し、子どもたちと様々なことを発見してほしい。

・園舎が建て替わるときを経て、貴重な経験をしたと思う。ひとつの終わりは新しいことの始まりの時でもある。淋しさを感じるが、新しいことを加えて、挑戦する保育、子どもたちとつくりあげる保育を目指して行って欲しい。

・園舎の引越しを子どもたちと共に迎え、子どもたちの気持ちにも寄り添った保育をしたことがうかがえる。これからも子どもたちの心に寄り添った保育をしてほしい。